ミンガラバー こんにちは

認定 NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL：086-224-0102
FAX：086-221-2554
URL：http://www.mjcp.or.jp

ヤンゴン郊外に寄付クリニック
12か所目　MGH岡山贈る

協会の呼びかけに応じて寄贈された診療所がヤンゴン郊外にでき、10月9日に開所式があった。岡山市中区高屋、MGH岡山（永山久夫社長＝協会理事）の「MGHクリニック」。これで協会関係者によってミャンマーに寄付された診療所は計12か所になった。

風船を飛ばして開所を祝った＝ヤンゴン

ヤンゴンの中心部から東北へ車で約1時間。かつての農村にも中小の工場が進出している。ここに診療所はあったが、老朽化がひどかった。それを全面改装するとともに、もう1棟新築したのが「MGHクリニック」だ。

常駐の医師1人と、看護師や助産師ら10人近くで診療にあたる。産院を併設し、新しくX線機器も導入した。また岡山大学病院から贈られた歯科用診療椅子も設置され、これまで寄贈の診療所では初めて歯科診療も行う。

診療対象5万人

診療対象人口は増え、この地区3万人から周辺を含めた5万人に広がった。

開所式を待ちわびていた大勢の地区住民が集った。あまりの混雑に警察官がでて交通整理するほどだった。永山社長に次いで岡田茂理事長があいさつ。「この建物を見るたびに日本の私たちのことを思い出してほしい」と話した。

MGH岡山は自動車修理や産業機械のメンテナンスなどを手がける会社で、診療所寄贈は会社設立50年記念事業。同じグループ会社の岡山コンクリート工業が2011年、岡山プラザホテルが13年に、それぞれミャンマーに診療所を寄付している。

乳がん検診センター開設へ
協会支援
マンダレーの病院

検診センターが入る建物の前で打ち合わせをするマンダレー中央女性病院長（中央）ら＝マンダレー

ミャンマー第2の都市マンダレーに来年春、協会の支援で「乳がん検診センター」が開設される。乳がんの死亡率が高い同国では、最大都市ヤンゴンに昨年末、協会の援助で初の検診センターができており、岡山などで研修した医師らが検診にあたっている。

岡田茂理事長が10月、ヤンゴンに次いで今回も協力する経産省や医療経営コンサルティング会社メディヴァ（東京）の人たちと一緒にマンダレーへ。旧知のティンマウンハン・マンダレー医科大学長らや国民健康財団の関係者との間で、乳がん検診センターをマンダレー中央女性病院に開設することにした。ミャンマー保健省もこの事業を支援する。

ミャンマー女性のがんで乳がんや子宮頸がんの死亡率が高いのは早期発見・治療の体制ができていないのも大きな理由。センターには富士フイルムメディカル（本社、東京）が寄付する乳房X線撮影のマンモグラフィーのほか、超音波診断装置も備える。放射線科の医師2人と技師1人が診断にあたり、治療はマンダレー総合病院で行う。

センターの医師ら3人は来年早々にメデヴァの招きで来日、岡山大学病院などで検診の実習をする予定。

日本へのミャンマー留学生倍増めざしコーディネーター
岡山大中心に推進

ミャンマーから日本へ留学する学生の受け入れの調整について、岡山大学が中心になって担うことが決まった。調整に当たる「コーディネーター配置事業」が文部科学省に認められたためで、12月17日、ヤンゴンに現地事務所が開設された。

前身が旧医科大など共通点が多いことから、いろんな分野で連携している千葉、新潟、金沢、岡山、長崎、熊本の6大学の共同事業。岡山大が中核になって推進する。

計画では現在、日本に留学中のミャンマー学生は約650人だが、5年後に2倍に増やす。そのためにヤンゴンの事務所にはコーディネーターが常駐し、地元採用の助言者らとともに教育省と協議したり、高校・大学などと打ち合わせをしたりする。国内では小川秀樹・岡山大教授（国際貢献論）が中心になって幅広い支援体制をとる。

この事業は文科省から助成金が出る。他に国立の有力3大学が申請したが、その中で岡山大が認められたことについて、小川教授は、協会の岡田茂理事長が医学部教授時代からミャンマーへの医療支援を続けてきた実績を挙げる。「これが採択の大きな理由の一つになった」と話している。

母子センターに 助産師めざす実習生宿舎
岡山・赤磐市 西山堅さん寄贈

ヤンゴン郊外の「西山堅クリニック（母子センター）」に、やはり寄付によって、助産師をめざす実習生の宿舎が完成し、10月7日に贈呈式が行われた。

贈呈式はテープカットで始まった。背広姿の右が武本さん、左が岡田理事長＝ヤンゴン郊外

同クリニックは岡山県赤磐市黒本の会社役員西山堅さんが協会の働きかけにこたえて、古い産院を建て替え、昨年末に寄贈した。ミャンマー看護師・助産師協会が運営にあたり、助産師志望の学生がヤンゴンだけでなく、国境周辺の遠くからやってきて実習している。「将来を担う若い人たちに役立つなら」と、西山さんは引き続いて宿舎の寄贈を思い立った。

宿舎は6部屋あり、食堂などの共用室がついている。実習生は1人で、20人の出産介助を経験しなければならない。それを終えて出身地に戻る。贈呈式の時もバングラディシュに近いチン州からきた4人が実習していた。

式では西山さんの親族の武本一郎さん（赤磐市在住）が「クリニックでは沢山のお産があってうれしい。それに若い助産師が育っているのは何よりです」とあいさつ。西山さんから託された血圧計と体温計、それに岡山大学病院からの白衣を届けた。

私を魅了する国ミャンマー

愛情と感謝と願い

協会理事　西山　央子

2年ぶりに訪れたヤンゴンで、その間にも町並みは美しく整備され、自動車が増え、ファッションも建物も著しく変化していました。変わらないのは、満面の笑みを浮かべて、滞在するホテルに私を訪ねてくれた懐かしい人たちのやさしさです。

支援活動の一端として、ミャンマーから岡山の地にやってくる研修生たちを受け入れ、その人たちに適切な生活環境を提供するために懸命な努力を重ねてきました。繋がりのあった当時の研修生たちが、いまだに私を慕って家族連れで会いに来てくれたのです。尽きることのない話題。これまでの苦労が報われる嬉しい再会でした。

ミャンマーにおける支援活動に携わるようになって、多様な場面で岡田理事長らに感化、触発され、まさしく感染でもしたかのように私もすっかりミャンマーフリーク。ミャンマーという国、ミャンマーの人々に魅せられ続けているのです。

困った人を見かけたら、ミャンマーでは気づかう言葉より早く体が反応して行動を起こす。通りすがりの人とは関わりを持とうとしない、見て見ぬふりをしてしまうのが残念ながら日本の風潮。これは私自身の体験から痛切に感じていることです。

「愛情」と「感謝」と「願い」。これら3つの「思い」を込めて、私は今日までの活動を続けてきました。この言葉は「原点」でもあり、「支柱」でもあります。協会の活動も来年は10年目。私自身のキャリアの集成という観点からも新しい形でミャンマーに貢献する方法はないか、例えば奨学金制度の設立のようなことはできないか。そう考えております。

押し迫ってまいりましたが、来年もご支援をよろしくお願いいたします。

歓迎会で挨拶するミョウキン医師＝岡山市中区

協会ヤンゴン代表　ミョウキン医師、来日

岡山大の海外特別教授に

協会のヤンゴン代表で、元ミャンマー保健省医学研究局長のミョウキン医師が10月16日、岡山を訪れ、4日間滞在した。

17日には岡山大学国際同窓会総会に、同窓会ミャンマー支部長として出席。岡山大学海外特別教授の称号を森田潔学長から贈られた。

協会にとって、ミャンマーに出かけて手術をしたり、シンポジウムで発表したりする医療技術の指導は、活動の大きな柱だ。同医師はその窓口の中心になってきた。

翌18日夕、岡山市中区のホテルで協会主催の歓迎会が開かれ、これまで医療技術指導などに出かけた協会員ら約30人が集まり、岡山大に留学中のミャンマー学生7人も出席した。

「協会のミャンマーでの活動のほとんどに関わっていただいた人」と紹介された同医師は「昔からの友達に会えてうれしい」と挨拶。中島基善・岡山商工会議所副会頭や槇野博史・岡山大病院長らが歓迎のスピーチをした。

ミョウキン医師は滞在中、岡山市北区野田屋町に移転したばかりの協会事務所の中にある、ミャンマーからの研修生宿舎に泊まった。

協会だより

5回目、計80台に

京都東ロータリー　車いす寄贈

贈呈式の後、地元テレビ局の取材を受ける安藤会長（左）＝ヤンゴン

京都東ロータリークラブ（安藤宇助会長）が車いす30台を協会に託し、ヤンゴンで10月9日に贈呈式があった。安藤夫妻や事務局長らが出席、ミャンマーの国民健康財団が受け取った。

同ロータリーの車いす寄贈は5回目で計80台となった。

ソロプチミスト財団から50万円

女性の国際奉仕活動援助団体、ソロプチミスト日本財団の資金援助として、50万円が協会に贈られることになり、11月18日、岡山市東区のホテルで贈呈式があった。協会の活動を推薦した国際ソロプチミスト西大寺（事務局・瀬戸内市邑久町）の好長シゲ子会長から岡田茂理事長が受け取った＝写真。

活動資金に100万円

西日本高速道路出店テナント団体

西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部（片桐悟会長）から協会に、活動資金として100万円が贈られることが11月に決まった。

同パートナーズ倶楽部は西日本高速道路管内のサービスエリアやパーキングエリアに店舗を出しているテナント56社で構成する。社会貢献活動として、これまでも保育施設や体育団体の支援などを行ってきた。

今回の協会への資金援助もその一環という。

編集後記

おそらく、医療技術や研究の指導のためミャンマーへ出かけた協会員らが、現地で一番世話になったのがミョウキン医師だろう。岡山を来訪した同医師の歓迎会。出席者は再会を喜び、抱き合う姿が見られました▼協会の招きで岡山で研修したミャンマーからの医療関係者はこれまで約50人。その人たちに食事をふるまったり、小旅行に誘ったりと、おそらく一番世話をしたのが西山央子理事だろう。西山さんのミャンマー訪問記には、かつての研修生の暖かい歓迎ぶりが行間から伝わってきます▼金、物、技・・・。国際貢献の形はさまざまだが、それらは根底に人があってこそ輝きを増す。2人の往来に、つくづくそう思いました。（西﨑）

7月に開いた協会の総会で承認された平成26年度（26年7月―27年6月）の活動予算書を掲載する。主な事業内容は前号（8月30日発行）で紹介済み。

平成26年度　活動予算書

（単位　円）

科　目	金　額		
Ⅰ経常収益			
1．受取会費			
正会員受取会費	2,220,000		
賛助会員受取会費	600,000		
役員運営受取協力金	200,000		
受取入会金	120,000	3,140,000	
2．受取寄付金			
受取入会金	4,000,000	4,000,000	
3．受取助成金			
受取民間助成金	0	0	
4．その他収益			
受取利息	2,000		
雑収益	500,000	502,000	
経常収益計			7,642,000
Ⅱ経常費用			
1．事業費			
（1）人件費			
人件費計	0		
（2）その他経費			
受入医療人生活助成金	1,200,000		
受入医療人宿泊費	120,000		
会議費	100,000		
旅費交通費	1,300,000		
業務委託費	300,000		
印刷製本費	230,000		
通信運搬費	500,000		
消耗品費	250,000		
借上料	0		
その他経費計	4,000,000		
事業費計		4,000,000	
2．管理費			
（1）人件費			
人件費計	0	0	
（2）その他経費			
会議費	80,000		
旅費交通費	160,000		
業務委託費	130,000		
通信運搬費	150,000		
消耗品費	80,000		
光熱水費	180,000		
借入金返済支出	1,440,000		
借上料	800,000		
交際費	50,000		
負担金支出	5,000		
支払手数料	35,000		
その他経費計	3,110,000		
管理費計		3,110,000	
経常経費計			7,110,000
当期正味財産増減額			532,000
前期繰越正味財産額			1,897,766
次期繰越正味財産額			2,429,766